

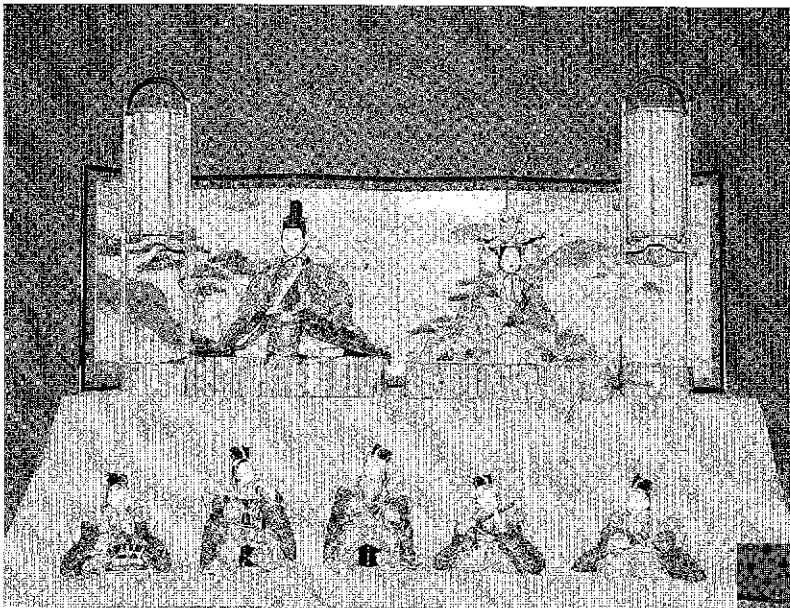
新潟県

平成7年

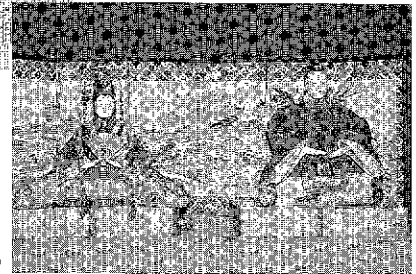
公民館月報

3月
第505号

特集 現代的課題とプログラム開発



写真①



写真②

城下町村上に伝わる

ひな人形展

〔村上藩主内藤家旧蔵の大名雛〕

箱書に「明治五年夏、上様から二五八分余り（約六五円）で買取った」旨の記載があります。家伝によれば内藤家十一代藩主信親の室よし子が鶴岡酒井家より興入れの時持参したものとされています。（写真①）

〔商家に残る古今雛〕

江戸時代の作と推定されています。（写真②）

この「ひな人形展」は、三月一日から二十七日まで、村上市郷土資料館で開催されています。

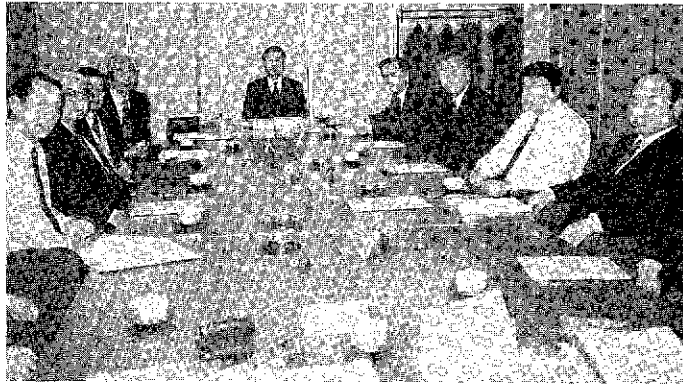
（写真・資料提供、村上市公民館）

第四回理事会開催

来年度の事業計画を検討

事業の継続・組織の硬直化克服へ

平成七年二月二十八日(火) 第四回理事会が新潟市中央公民館で開催され、来年度事業の計画案審議や当面の諸問題の検討など盛りたくさんの協議事項につ



いて、論議がかわされた。

一、新年度の重点案

新しい時代の公民館の在り方を求めて、

(1) 多様な学習機会の開発に

関する工夫。

(2) 地域住民に対する均

質な教育的・文化的

サービス提供の方策の

検討。

(3) これらのための公民

館施設設備や職員体制

のあり方と工夫。

(4) 本会運営上の体質強

化策の検討

を重点に事業を進める。

二、運営検討委員会の答申

について

平成七年十一月十四日

に、当県公連の運営改善に

関する答申がなされた

(七・一・一五既報)。

答申の要である骨子

(1) 常任理事制の採用と

専門部制の導入

(2) 職員部会の設置と、

職員員の活力による事業推進

(3) 互助会制度の導入による

自己財源の確保について協

議された。

自己財源の確立については、

公民館月報の単価一部一五〇円

で二〇円アップの承認と、ブッ

クレットの作成販売の必要性、

互助会組織による「安全」の制

度について研究をしていく。

過去にも何度か問題が提起さ

れたことではあるが、「県補助金

ならびに市長会・町村会へ働き

かけるためにも進んで状況説明

やコンタクトを得ておく必要が

ある」との発言があり、新しい

年度にはこの問題についての検

討と行動が必要となろう。

三、第46回公民館大会開催要項

の検討

大会は平成七年七月二十八日

(金)、主管は西蒲・燕公民館等連

絡協議会が当たることは一部既

報のとおりであるが、開催要項

について検討がなされた。

テーマについては、新年度の

重点を生かし、「コミュニティーづくりと公民館のかかわり方を考える」とし、主として公民館の体制や研修について考えるもの。

なお、主管公連の希望により

①分科会方式の採用(市部会、

町部会、村部会の三分科会を構

想)

主会場は西蒲原郡弥彦総合文

化会館の予定である。

大会に向けて、平成六年九月

には公民館先進地視察をし、同

十月七日(金)には公民館運営審議

第三回編集専門委員会開催

読ませる月報・豊かな情報を交換!

二月二十四日(金)、平成六年度

第三回編集委員会が新潟市中央

公民館で開催された。今年度の

「公民館月報」の編集発行につ

いての反省ならびに来年度の充

実策が話し合われた。

第一に、本紙の性格が公民館

連合会の機関紙であることを鮮

明にし、公民館運営の情報提供

に関し、より一層の充実刷新を

図る。そのため、文字の話し込み

は止むを得ないものとして読者

の理解を得ることにした。

第二に、上・中・下越地区公

連の研究會や公連組織の活動に

ついての情報提供は従来にも増

会委員の研修会を約七〇名の参加で実施し、「公連審議員の役割」についての考えを深めた。また平成七年一月十九日(木)には公民館長会議を開催して協議会を開きテーマの検討をした。

この三月二日(木)は公民館長・職員合同研修会を三〇名の参加で

開き、佐渡郡金井町制作のビデオ

フォーラムを行い、「生涯学習の

取り組み方と、公民館のあり方」

について研修をして大会に備え

つつある。

して密にするとともに、郡市公連規模のブロックでの研究会や問題点などの紹介についても取り上げるなどの連絡提携を密にする必要がある。

第三に、二年間続いた特集シリーズ「公民館の今日的な課題を追って」は来年度も継続する必要がある。

第四に、「月報」の編集に関して市町村公民館の情報提供の普遍化を図るための通信員などを発掘したいという意向が、答申の提言、対応の4と連動するの

で重視することになった。

月報五〇〇号を祝い語る会

はずむ思い出／ひろがる期待！

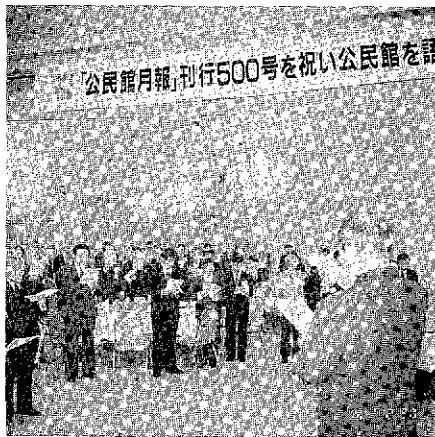
去る二月二十日(旧新潟厚生年金会館において、七十余名の方々の参席を得て、この会が充実した内容で開催された。開会に先き立ち、阪神大震災の犠牲者に対して黙祈をささげた。

賜り、歴代編集長への感謝状贈呈、アトラクションは「映画鑑賞—生きがいを求めて—」で、しっかり学習をして式典を終了した。

祝賀今は第三代会長安

公民館の歌の斉唱、主催者挨拶(実行委員代表細川仁氏)、来賓として県生涯学習推進課長補佐様、県公民館振興市町村長連盟副会長、近寅彦様から祝辞を

澤純巳様の乾杯で始まり、テープルスピーチが次々となされ、交歓会も懐しき、励まし、楽しさこもごもに往時の逸話や



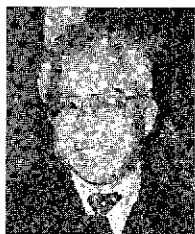
エピソードも絶えまなく紹介されて宴たけなわのうちにお開きとなった。

視 点

公民館が立派になつた。

鉄筋コンクリート造三階建。事務室のほかホール、会議室、研修室、図書室、視聴覚室、調理室……。

そしてエレベーター、冷暖房完備。



予算も増えた。しかし、その大部分は館の維持管理に要する経費で、実質的な事業費は全体の四分の一あるかどうか。

昭和三十年代のはじめころ、自転車の荷台に一六ミリ映写機を積んでほとんど毎晩のようになあちこち走りまわったことを懐かしく思う。

人が欲しい 富山靖之

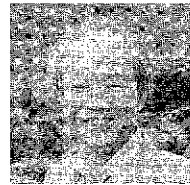
公民館を利用する人も増えてきた。でも、そのほとんどは婦人会、老人クラブ、民踊、ダンス、詩吟、お茶、生花等々趣味のグルー

公民館に、人が欲しい。勝れた人材が欲しい。住民の中へとびこんで行って、住民といっしょに汗を流すことができる人がどうし

(巻町郷土資料館館長)

短歌と私

笠原忠勝



鳴り物入りで「生涯学習」が言われてからもう十年に

二十代までは少し嗜んでいたといえ、十五年を越える空白期間がある。その上、三千人近い会員を擁する大結社。毎月、十首出詠しても二首しか採られないままの月が一年以上も続いた。

行政主導で、何でもこんな大キャンペーンがなされなければならぬのか、当ても今も疑問を感じているし、勘繰りたい気持ちもある。

人間、「自負心」という馬鹿を抱え込んでいるものだから面白くない。それでも「継続は力なり」と、人にも言っている立場。「ボツ」になった歌と、採られた歌の違いを研究する。そうするうちに漸く見えてくるものがある。

二年ほどして特選欄五首に掲載させてもらった。自信とまでは行かないが、面白く(?)なってきた。入会以来十七年、欠かさず出詠している。

この三月で定年退職。短歌が生きがいの一つとして定着しそうだ。

障害児学級の生徒我が部屋をしばしば覗き声掛けてゆく

しらじらと冬の未明の月を肩に載せて円し同上の山は

(分水町公民館運営審議会委員)

はじめに

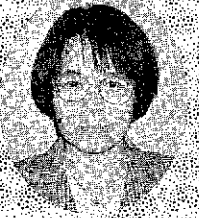
公民館全国セミナーが各地の要望に添えて「プログラム開発」に力点を入れた内容で開催されました。

本県からは、新潟市中央公民館事業係長、田村富美子氏から参加していただきました。

公民館の当面する重要課題を協力して研究する参加集団で、積極的な研修がなされました。

たくさんの方の研修成果を持ち帰っていただいたので、できるだけ多くの資料や討議内容を、氏の手で紹介してもらいました。

セミナーレポート
開発の研究



田村氏

田村 富美子 氏

第6回生涯学習推進研究協議会(通称:公民館全国セミナー)は平成七年一月一八日(水)から二〇日(金)の3日間、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。北海道から沖縄まで45人が参加し、例年女性が1/2人と聞いていたが、今回は6人の方が参加されていたのは大変心強かった。

また、宿舎も昨年オープンしたばかりの快適なたたずまいでこれも見事に私の不安を消してくれた。特に窓から見える夜の新宿の高層ビル群のライトがきらめいて美しい。

何はともあれ、新潟とは正反對の青空に心も軽くなり、久しぶりに充実した3日間を送ることができ、満足のいく研修であった。

さて、今回の研究主題は「生涯学習の推進と公民館事業」学習ニーズの多様化・高度化と事業・プログラムの開発

であった。二つの基調講義と事例研究、最後に全体研究という構成になっている。

事例研究は、第1部会「ボランティア活動に関するプログラム及び場・機会の開発」と、第2部会「現代的課題に対応するプログラムの開発」に分かれ、私は第1部会に参加した。以下、

順を追って主な点を報告する。

二つの目的達成を

目指して

最初は青山学院大学の稲生勲吾教授による「公民館の活性化と事業・プログラム開発の視点と手順」と題した基調講義で事業の企画・立案の原点を語られた。

「公民館職員は常に何を目標として事業を企画するかを考えていかなければならない。そのためには、教育基本法第1条(教育の目的)をよく見直すことである。そこには教育目的の個人的側面と社会的側面が記されており、それは社会教育法第20条(公民館の目的)にも通じている。この二つの目的を達成するように事業を行うべきであり、

この目的を目指していかなければ公民館ではない。」

また、事業計画及びプログラムの意義について、「事業計画には年間事業計画から個別事業計画までであるが、社会教育における学習目標達成のための学習内容の範囲と順序を示すものが計画である。なお、学習目的には

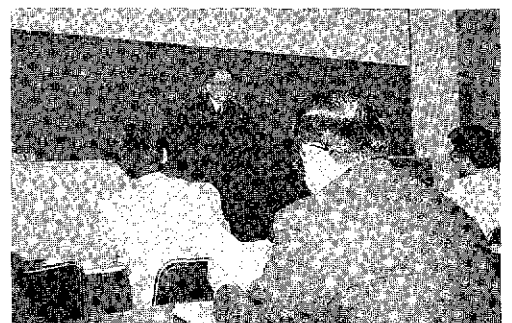
- ①計画立案の指針
- ②学習の目標
- ③評価の基準

次に、事業計画及びプログラム立案の視点について、

「発達課題と生活上遭遇する問題の中から出てくる無数の内的要求、外的要求を教育目的に照らし合わせると学習要求(要求課題)と学習必要(必要課題)となり、これが学習課題(学習目標)であるが、学習要求の中に学習必要を上手に盛り込んでいけないものか」と言われた講師の言葉に公民館職員の資質を問われたように感じた。

続いて、事業計画及び学習プログラム立案の手順について説明された。

- ①学習者の特性(学習要求・



学習必要)を理解する。

②大まかに学習することを決める。

③全体の学習目標を決める。

④学習の範囲(スコープ)と学習の順序(シーケンス)を決める。

⑤各回の学習目標を決める。

⑥全体の学習を明確化する。

⑦講師、方法、会場、時間帯

⑧評価(次の計画のために)

最後に事業計画及び学習プログラム立案の際の留意点として

- ①自己主導的学習態度を育成(自分で考え、実行する人間)
- ②社会性を育成(集団としてのまとまりを生んでいく)していくことが大切であると結ばれ

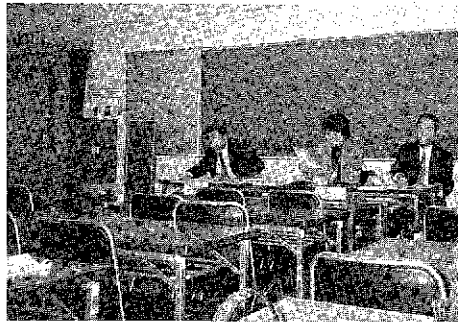
平成6年度 公民館全国 現代的課題とプログラム

新潟市中央公民館事業係長

CITIZEN(市民) を育成する場

続いての基調講義は、国立教育研究所生涯学習研究部生涯学習開発・評価研究室長の山本慶裕氏による
「公民館の活性化の条件―調査研究レポート」である。

戦後から現在に至る公民館の変遷を通して、公民館の主要な役割の一つは、1946年文部次官通牒「公民館の設置運営について」の中で、寺中作雄は「公民の家」として位置付け、



公民とは「自己と社会との関係についての正しい自覚を持ち、自己の人間としての価値を重んずるとともに、一身の利益を超越して、相互の助け合いによって公共社会の完成の為に、つくす様な人格を持った人、又はそのような人格たらんことを求める人」
即ちCITIZENであり、公民館はCITIZENを育成する場であることを強調された。また、生涯学習時代における公民館の役割として、
①公民館活動の多様化、活発化
②学習情報の提供・相談機能の充実
③地域活動の拠点
④生涯学習関連施設等との連携の役割をあげた。

続いて、公民館を中心としたネットワークとして、
①行政・大学・民間等との連携
②学習プログラムにおけるネットワーク
③学習者のネットワーク作りが必要であると述べられた。
最後に、様々な生涯学習の専門施設が出現している現在、公民館の存在意義を問いなおすところであるとして、社会教育法第20条を読みなおし、中央公民館と地区館の役割の違いや公民館の独自性を考えながら公民館活動をすすめてほしい。使用価値、交換価値で見られない現代社会の中で、生きることの意味や自己の存在価値を高めること、つまり生きる喜びをつくるのが公民館活動の役割ではないか、と力説された。

部会別事例研究

二日目は1日かけて事例研究が行われた。

第1部会の助言講師は広島県立生涯学習センター振興課長の荒谷信子氏、司会は(財)埼玉県民活動総合センター生涯学習課長の鈴木あい子氏の2人のすばらしい女性がつとめられた。

〈事例発表1〉静岡県袋井市「社会通信教育利用のボランティア養成」

この講座の特徴は、(財)実務教育研究所の文部省認定通信教育講座「生涯学習ボランティアコース」を取り入れている点である。6か月で6単元を学習する。受講料は無料で、教材費等については全額公費で負担する。年間10人を予定し、平成4年度から始め、60人を旨とする。通信教育の個人学習と並行して、月1回程度の連絡会を開催し、受講者同志の情報交換を行うとともに、修了者と現受講者との交流を図り仲間づくりをすすめている。ここではボランティア講習会の企画、運営や他の事業への協力の協議などを検討している。

だが、レディメイドの良いもの、自市にあったものでニーズにあっていたら、それを使ってもよい。袋井市はそれに味付けした独自のプログラムを開発し養成後の活用方法までプログラムングしてあり、フォローがきめ細やか。学習した成果はどこかに広げたいというのがボランティアの気持ちである。

生涯学習は自発的意思、かつ自己に適したものをを行うという点でボランティアと共通している。生涯学習は各自のニーズに対応したものであり、どんなプログラムでもニーズの把握が必要である。それに地域の学習課題をミックスさせていくことが大切であろう。

〈事例発表2〉石川県小松市「こまつ教育ボランティアセンターについて」

退職教員等が中心となり、市にボランティアとして活躍したいとの申し出があり、昭和63年結成した。基本的な理念は
①自己実現を図る
②連帯意識を高めた元に還元する
③市民の生涯学習の手助けをすることである。

今年で3年目で修了予定者を含め32人。「学習ボランティアの会」として組織的に活動する。
助言
学習プログラムは市民の注文によるオーダーメイドが理想的

いる。現在会員は120人。行政はセンターへの支援として、年間100万円の活動交付金(生涯学習活動基金)の拠出と、人的支援として、生きがい学習課指導員を指導にあたらせ、また市広報にPRなども行っている。

助言

人的・物的資源を活用したもので、住民主導を行政が後押しするというよい事例である。学習のお手伝いをしたい人と手伝っていただきたい人の仲介をボランティア・センターがやってもよいのではないかと。

また、行政の緊急課題や地域課題を見抜いて、プログラムしていくのが職員の役目ではないだろうか。

全体研究

ここで四つの部会報告に対して、コーディネーターの文部省生涯学習局社会教育官坂本登氏がまとめたことを記述する。

- ・プログラム開発について、司会者のまとめ
- ・プログラムはレディメイドを活用することも可能
- ・活動の場、成果を生かすことを発見するのにもプログラムの開発

平成 6 年度 牟礼町公民館年間行事計画表

重点目標	公民館における生涯学習課の提供	地域のふれあい課の提供									
(1) 自己実現の学習機会の提供	1. 「学ぶ喜び」を知る学習 2. 「つくる喜び」を知る学習 3. 「遊ぶ喜び」を知る学習	1. 「ふれあう心」の育成 2. 「思いやる心」の育成 3. 「協働の心」の育成									
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
古典に親しむ(動物日記) 毎月第2・4水曜日 13時 10回	古典に親しむ(源氏物語) 毎月第1・3水曜日 13時 10回	古典に親しむ(織物日記) 毎月第2・4水曜日 13時 10回	古典に親しむ(源氏物語) 毎月第1・3水曜日 13時 10回	古典に親しむ(源氏物語) 毎月第1・3水曜日 13時 10回	古典に親しむ(源氏物語) 毎月第1・3水曜日 13時 10回	古典に親しむ(源氏物語) 毎月第1・3水曜日 13時 10回	古典に親しむ(源氏物語) 毎月第1・3水曜日 13時 10回	古典に親しむ(源氏物語) 毎月第1・3水曜日 13時 10回	古典に親しむ(源氏物語) 毎月第1・3水曜日 13時 10回	古典に親しむ(源氏物語) 毎月第1・3水曜日 13時 10回	古典に親しむ(源氏物語) 毎月第1・3水曜日 13時 10回

- ・連携、後援等によるプログラム開発
- ・プロジェクトチームによるプログラムの開発
- ・学習方法もプログラム開発
- ・継続講座の中に1コマを導入する方法

①マンネリ化
②学習課題の押しつけ(ニーズへの対応と調整)
③公民館の施設の在り方
④「対心」について
⑤新たな学習課題にたいして従来からカンと経験による取り組みで展開されている点を打破していかなければならないが、近年の人事のローテーションではこれも困難になってきた。カル

チャーセンターなどの取り組みを参考にすることも一考である。ニーズへの対応についても同様である。

現代の課題は私達の生活に大きな影響を与えているので、やらなければならないことであり税金を使って興味や教養の講座をやっているのかというの

員となつたら常に自己啓発をして欲しい。

これからの公民館の課題としていくか、また、地域ネットワークの総連携・協力の中核となる方法を考えていかなければならない、と結ばれた。

H6 事業実施一覧表

(豊中市立庄内公民館)

タイトル	実施月日	会場	テーマ	主な内容
1 藤原と水と子供達	50.3.25(日)~26(日)	藤原神社、ユースホステル	藤原の自然保全学習	軍記を使った読みづくり、藤原の自然観察
2 藤原と水と子供達	50.6.23(日)~24(日)	宮内省立野井活動センター	河川の自然保全学習	河川の自然観察(小動物・昆虫・植物・音)
3 藤原と水と子供達	52.7.28(日)~29(日)	豊中伊丹博覧会第1工場	リサイクル学習	洗剤を使った生活臭づくり
4 藤原と水と子供達	50.10.27(日)~28(日)	庄内下水道、50-506-1500	下水道学習	風呂湯水処理実験
5 藤原と水と子供達	93.3.29(日)~30(日)	市町立立地環境、市内各所	生活環境学習	ドラッグチェック(農業・市場・養蚕・養)
1 藤原のヨシこども園	91.5.6(日)~9(日)	豊中伊丹博覧会第1工場	ゴミ分別学習	ゴミ分別学習、自転車・空容器調査、Audiologyの環境対策調査
2 藤原の水と水環境	91.7.24(日)	市内各所	ゴミ回収学習	ゴミ回収学習
3 藤原の水と水環境	91.10.26(日)~27(日)	市内各所、YMCA	飲み水調査	青芦水調査、飲み水調査、水質調査調査、きき木大会
4 まちの工場探検隊	92.3.25(日)~26(日)	市内企業工場	企業の環境対策学習	工場環境調査、工場の環境対策調査
5 まちの商店探検隊	92.6.6(日)~7(日)	豊中駅前商店街、駅前ビル	まちづくり学習	商店環境調査、まちづくり調査
6 エコロジー・ワークショップ	92.10.3(日)~4(日)	同町、豊中、伊丹	食生活改善学習	市場・商店街、スーパーマーケット比較
7 田村探検	92.11.28(日)	同町周辺	まちづくり学習	時の流れを感じるもの調査
8 田村探検	93.3.12(日)	庄内周辺	まちづくり学習	時の流れを感じるもの調査
1 近いこと探検	95.5.20(日)	豊中周辺	まちづくり学習	人・街・自然の「顔」に「安心」を「見せる」調査
2 はた企業(働く)探検	93.8.20(日)	豊中周辺	住居と自然の関係学習	街の景観調査、新住居比較調査、人の住みか調査
3 はた企業(働く)探検	93.9.15(日)	豊中周辺	労働学習	会社での調査、労働調査、労働についてのインタビュー
4 エコロジー・ワークショップ	93.10.30(日)~31(日)	豊中、同町周辺	食生活改善学習	人体の環境と良い調査
5 遠くへ探検	94.3.12(日)			

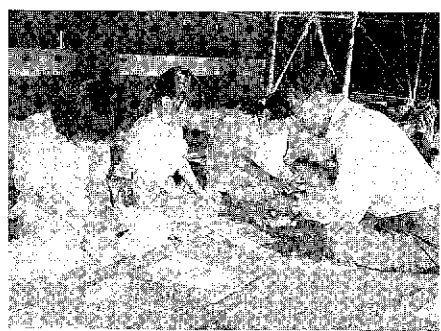
サークル交流

「竹とんぼ」作りは楽し

黒埼町民具芸品愛好会

当会は、民具芸品の制作技術を研究、普及、保存及び伝承を目的に、昭和四十七年に発足しました。毎月一、二回地区公民館の一室に集まり研究会を開いています。

平成二年から町民会議の依頼を受け、町内小学校で「竹とんぼ作り教室を開催しています。危なっかしい手つきで小刀を使って、竹を一生懸命削る子供たちと「竹とんぼ」を作り飛ばします。教えるというよりは、



「わあスゴイ、去年より一段と腕をあげましたね」「小千谷でこんなやっておられるんですか」「いいですね、陶友会の皆さんは……」これは昨年十一月に開催した第二回陶友会グループ展の反響である。激励とも賞賛ともとれる参観者（二日間で三百六十人）のことは、作品（二百

私たちの技術向上にもつながり、子供たちとの交流も楽しみの一つです。

文化祭では、制作したわら細工などを販売し、好評を得ています。現在では使われること少なくなつた品物も多く、懐かしさと珍しさで購入されるようです。

また、年二回近隣の資料館や愛好者を訪ね、見学や交流を行っています。現在会員は三十七名、高齢者がほとんどで、新規会員も少ない現状ですが、会員一同がんばって活動しています。

（黒埼町民具芸品愛好会 会長 田辺伝平 記）

土と炎と人に魅せられて

小千谷陶友会

「わあスゴイ、去年より一段と腕をあげましたね」「小千谷でこんなやっておられるんですか」「いいですね、陶友会の皆さんは……」これは昨年十一月に開催した第二回陶友会グループ展の反響である。激励とも賞賛ともとれる参観者（二日間で三百六十人）のことは、作品（二百

余点)に注がれるまなざしと笑顔に、会員は「良かったね、よし来年も」と新たな誓い、自信、勇気がみなぎる、そして指導して下さる三人の顧問に心からの感謝と敬意の念をいだく。作って使って楽しむことを会のモットーとし、堅苦しい規約など一切なし、あるのは、やる気と本気と根気。もつべきはライバル、ライバルは己れを磨く砥石なり。こうしたムードをもつサークルが誕生したのが十六年前、公民館の陶芸教室での出会いがあったからだ。

閉展のとき「神山清子先生に近づけたいこそ、頑張れ、初心を忘れたら駄目だよ」……もの言わぬ陶器の提言だった。(小千谷陶友会 山本 巖 記)



能生町公民館主事

清水誠子 氏

昨年四月に能生町公民館に配属され、まもなく二年目に入る。以前は、住民課に所属し「窓口係」として、町の顔という一面をもつて住民と接してきた。現在、公民館図書室の担当として、OA化に向けた作業を先頭に立って頑張っている。



体型は、やや小柄ではあるが、負けん気は人一倍強いようだ。冬になると熱中している

素顔 拝見

両津市社会教育課

遠藤隆行 氏

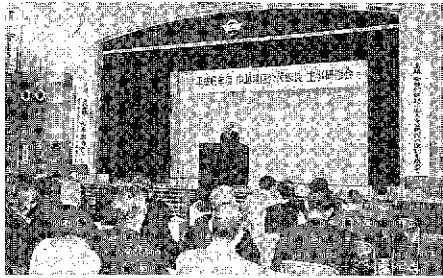
精悍なマスクとパワフルな肉体から映画俳優のJ・K・パンダムをもじり「パンちゃん」と皆から呼ばれている彼は、昨年4月、当公民館に颯爽とデビューした。



たって砕けるの精神」で頑張っているが、恋愛の方は砕けっ放しの毎日である。しかし彼の積極的な姿勢があれば、女神が微笑む日もそう遠くはないだろう。

その外見とおりの性格と天性のパワーでどんな仕事にも真正面からガンガンぶつかっている。現在、視聴覚関係の講習会や担当分館の行事等に全力で取りくんでおり、住民の信頼も厚い。一方、プライベートでも「当

（両津市 社会教育課主事 荻谷 尚志 記）



「みしま中央会館」で三島町

中越地区公民館・主事研修会

「今日的課題に込める 公民館の役割を求めて」

去る二月二二日(水)平成六年度の中越地区公民館長・主事研修会が二百余名の参加者を得て熱気あふれる「みしま大会」となった。

「成熟していく社会に、高齢化・情報化・多様化にいかに対応していくか」を探るという趣旨で、

一 実践発表「今日的課題に込める公民館事業の事例」

二 講演「良寛の心を求めて」講師 全国良寛会参与・柏崎良寛貞心会副会長 駒谷 正雄 氏

大会までの経過報告と励ましの祝詞があり、公民館サークル活動の実践発表が六部門あった。

実践発表では会場からも率直な質問がでるなど、熱心な研修が展開された。

分水町意気昂く！ 生涯学習推進大会開く

去る一月二九日(日)西蒲原郡分水町文化センターで、平成六年度「分水町生涯学習推進大会」が二百余名で会場を埋めて開催された。

講演は「フィリピンのある少数民族(農耕民)社会に学ぶ」と題して、県立新潟女子短期大学専任講師木佐木 哲朗氏の小地域社会、家族・親族の生態や、地域自治の可能性などにふれながら足で学んだ体験を披露された。アトラクションとして、「コーラスグループ・かよう会」「和太鼓(ラミワケ太鼓・島上小児童)」の出演が会場をわかせて大成功のうちに閉会した。

図書紹介



美しい作品集

—新潟美術グループ—

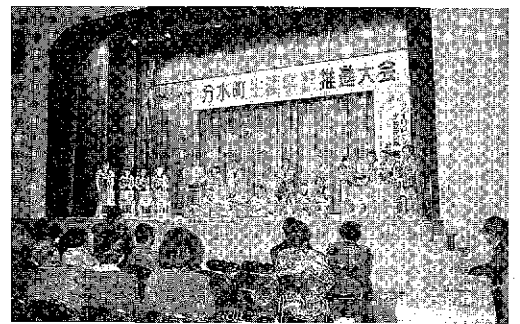
新潟県内の美術・芸術愛好者 絵画や書道、手工芸などさまざまな分野の美術グループが、このたび、「新潟美術グループ協議会作品集」を発刊されました。

このグループは、グループが、互いに励まし合いながら、それぞれの作品を発表しており、年1回の合同展示会も開催しております。

作品集は、「日本画・洋画・版画・写真・書道・華道・手工芸・押し絵・ちぎり絵・人形」の10部門、さまざまな思いをこめた力作900点が掲載されています。ぜひご購入を！

・サイズ A4判、オールカラー、275ページ ・価格 1冊 6,500円

問い合わせ先 東北電力グリーンプラザ内 951 新潟市上大川前通5-84 ☎025 223-4658 「新潟美術グループ協議会作品集」係まで



本田清様(第三代)公民館月報「編集長」から

「祝五百号」へのメッセージ

「三代目の編集長として二七一年間、まさに激動と苦闘の時代に在職しました。

一つだけ思い出を語るとすれば、編集委員会を主催していたとき(「柳水閣」本町通り)新潟地震に遭遇したことでしょうか。そんなときにも幸い休刊せずに乗り越えました。

紙面のファースト・アタックを大切にしたいところから、表紙写真とそのキャプションづけには、特に心を砕いていました。皆様によりしくお伝声ください。

い。(後略)

あとがき

◆「五〇〇号を祝い語る会」が皆さんのご協力で、楽しく、懐かしく、元氣のする会となりました。厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

◆平成六年度のふしめ五〇五号です。平成七年度への力強く出発できるためにも皆様からのご発信をお待ちしています。◆ファックスが入りました。今までご不自由かけました。県公連専用のファックスです。どうぞご利用ください。

FAX番号・電話番号と同番号

号 (〇二五)二二四一六〇七三 長い間、「にいがた社会教育協会」さんのご厚意で借用させていただきました。ありがとうございました。

発行所 新潟県公民館連合会

〒951 【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【TEL・FAX (025)224-6073】
発行人 会長 細川 仁
編集人 事務局長 鴨井 三郎
【定価1部130円 年共 1,560円】